

サイの御教え　　ババ様三十七歳の御降誕祭の御講話（午後）

カリキュラムを立案すること

大臣のチェンナ レッデイー（アーンドラ プラデー シュ州政府の大臣でババの帰依者）は、一時間前にプッタパルテイの学校の校舎（ババが寄贈したもの）を落成しましたが、その喜ばしい出来事に伴う集会在、今ここで開かれています。というのも、プッタパルテイ村には、今ここにいる、インド中から集まった大勢の人たちの十分の一の人数ですら集まれる場所はないからです。大臣が私に出会い、私が大臣の家に行ったのは八年前でした。しかし、この村に来たい、プラシャーンテイ ニラヤムに来たい、という大臣の切なる願いは、今日やっと実現しました。その今日でさえ、大臣は校舎の落成式を利用して、やっと私のところに来ることができたのです。大臣は、この行事を実行するために、そして、何年もの願いを満たすために、東ゴードーヴアリー県から急いでここに直行してきました。

村では、二人の人物が同じ見解を持っていることは

なく、二人の人物が同意することがありません。これは、人々の間に、悪い感情、誤解、慢心、妬み、憎しみを引き起こし、助長させる原因です。しかし、私はこのことを、この村の人だけに言っているのではなく、何千という村々からここにやって来た人たちにも言っているのだということ、覚えておきなさい。それが村全体にかかわる問題であれば、自分の狭い偏見、個々の憎悪を前に押し出さずに、皆にとって善いこと、共通の福利だけを考えなさい。そうすれば、自分の個人的な好き嫌いは一切忘れられます。私は「プッタパルテイ ババ」とも呼ばれています。ですから、この村にいる皆さんは、村のために何か善いことをしたいと思つたら、全員いつでも私のところに来る権利があるのです。

村の小学校が、広々として、風通しがよい、複数階のある新校舎を保有し、そこに引越す今日という

日は、実に、この村の歴史に残る日です。今日は、教育が発展して美德と謙遜と平安をもたらさず、新しい時代の始まりです。

インドはダルマを味方に持つ

私は、皆さんの心[↑]が他のこと一杯になっていることを知っています。(約一ヶ月前に勃発した中印国境紛争で) 侵攻されて占領された土地からの中国軍の撤退について思索したり、殺された兵士や負傷した兵士の家族の気持ちを考えて同情したりしているのです。チエンナ レッディー大臣も感情をあらわにしてくれらに言及しました。兵士たちは中国軍の侵入を食い止めようとして祖国のために戦いました。戦没者のために祈ること、そして、勇敢な戦士たちが幸せな気持ちで凱旋^{がいせん}することを祈ることが、皆さんの第一の義務です。それと同様に、あなた自身の短所や欠点を探し、それらをすぐに直すことも、皆さんの義務です。皆さんは、自分の国と文化を救うために、自分の才能を発見して伸ばし、自立した、強い、成熟した

インド人にならなければなりません。そして、何にもまして、固い信念で身を固めなければなりません。最後には真理と愛が勝つ、公正と不屈の精神が勝つという信念です。皆さんはそれを試みていないので、信念の力を自覚していません。

同様に、マハーバーラタの戦争の最中、人々は、

「クリシュナのいるところ、必ず勝利あり」

ということを感じていました。なぜなら、クリシュナは常に真理の側につき、真理は敗北をもたらさないからです。インドは自らの側にダルマを持っています。つまり、クリシュナを持っているということです。ですから、まもなく勝利の歌が聞こえてくるでしょう。もしまだ聞こえていないのであれば！

中国軍がインドに危害を加えることはできません。なぜなら、私たちは、美德の力、真理、公正、愛、堪忍、寛容を欠くことがないからです。これらが本当の戦闘部隊であり、本当の弾薬であり、軍備です。

アシュワタマが、憎しみによって何も見えなくなつて、こっそりとパーンダヴァ兄弟の軍事キャンプに侵入し、眠っていたドラウパデーの子どもたちを虐

殺したとき、ドラウパデーはその狂気に満ちた犯人に復讐ふくしゅうすることを拒否しました。というのも、アシュワッターマはパーンダヴァ兄弟の師グルの息子であり、グル同様に敬意を受けるに値するからです。ドラウパデーの拒否は高潔さであり、この国の母たちのハートを感動させました。あれは弱さではありません。むしろ精神力を強くするものです。敵の士気をくじくものです。敵には恐れがついてまわり、自らの歩みにつきまとう勝利への躊躇ちゆうちゆうと疑いによつて、敵は臆病者と言われるのです。

実践しないなら、学んだことは役に立たない

ですから、勇敢でありなさい、確信していなさい。私の降誕祭が暗いニュースで損なわれることはありません。皆さんはきつと、肯定的な明るいニュースを受け取って喜ぶでしょう。(さらにスワミは、プラシャーンテイニラヤムの旗の掲揚の際に、「サナータナダルマが危害を受けることはありません」ともおっしゃいました。)

今は、今日のこの行事が行われている学校について話さなければなりません。チエンナレッツデー大臣は、企画大臣でもありますから、教育の立案に関することも話しました。どれほど多くの立案を練つても、その立案を実施しても、もし学校で学んだことを実践しないなら、意味はありません。たとえば、「健康と健康法」という課は小学生の教科書にも載っていて、生徒たちはそれを暗記して繰り返すことで学習しますが、実際、それらがどれくらい実行されているか調査してみなさい。村の道、村の井戸、村の家々、村の子どもたちを見て、果たして五十年も六十年も健康と健康法の規則を教えてきた効果が見られるかどうか、私に報告しなさい！もし生活や健康に関する事柄さえも無視されているならば、学校で教えている他のもつと難しい科目はさらに低い効果しか生んでいないということは、私がおざわざ皆さんに言うまでもありません。

子どもたちにミシシッピー川の長さやベスピアス山の高さを教えて何になりますか？なぜ絶対に必要なような情報を子どもたちの頭に詰め込むのです

か？ そうではなく、魂を強くする強壯剤を与えなさい。主の御名を繰り返し唱えるという強壯剤、ハートの静寂の中で神の栄光を瞑想するという強壯剤を。

以前、子どもたちは「ラーマヤナ」と「アクシヤラマーラ」（文字の花輪）と一緒に学んでいました。子どもたちは、

シュツダ ブランマ パラートパラ ラーマ

（ラーマは純粹なブラフマンであり、最高のもの中でも最高のお方）

と、読み書きしたものです。今では、「リンリンと鐘が鳴る、子猫ちゃんは井戸の中」（マザーグースの歌）と歌っています。この種の、馬鹿らしくて意味のない、訳のわからない言葉があらゆる所に広まっています。これは言うなれば、毒性の伝染病が平安と歓喜の種をだめにしていくようなものです。

医者には、自分のところにある薬をただ差し出していいわけではありません。医者は病気を診断し、患者の

素性、家系、習慣、食べている物、好き嫌いを調べます。それから適切な治療法を処方するのです。この国と、この国以外の世界中の国々が、今、苦しんでいる、「食欲」、「急ぐこと」、「憎悪」という病気と不満をなくすために、教育の立案者たちは、適切な治療法を発見しなければなりません。そうすれば、靈性修行の初めの数歩は、たとえ幼少期であっても子どもに教えなければいけないということがわかるでしょう。人は、たとえ子どもでも、自分のハートの中に歓喜と平安の泉を持っています。それらを育み、それらが流れ出してあらゆる活動の場を豊かなものにするための、完全な自由をそれらに与えること——これが教育の本当の目的です。

一九六二年十一月二十三日
プラシャーンティ ニラヤム
Sathya Sai Speaks Vol.2 C49